

# 支援の難しさについて

---

実習クラス7組 萬代クラス 障害グループ  
生垣 内海 塩崎 濱田 原田 藤岡 森本



# 障害福祉サービス事業所 きらら

- 利用者さん

精神障害、知的障害、身体障害、発達障害、などをもつ  
18歳から64歳までの方

- 事業内容

就労継続支援B型(定員28名)、生活介護(定員6名)

- 作業内容

就労継続支援B型→なごみ班、パン班、内職班  
生活介護 →たけのこ班



# 就労継続支援B型

就労継続支援B型は、施設内作業を通じて生産活動に必要な知識や社会性を養えるように支援を行う。また、基礎訓練と実践訓練を通して、利用者個々に応じた支援を行っている。

9:15	通所
9:45	朝礼
10:00	作業
12:00	昼休憩
13:00	作業
15:00	終礼
15:30	退所



# 生活介護

生活介護は、日常生活上の支援や排泄、食事等の介助、健康管理及び身体機能の維持、創作活動・生産活動の機会を通じ知識と能力の向上に必要な支援を行う。また、作業だけではなく、生活の質が豊かになるように余暇活動にも取り組んでいる。

9:15	通所
9:45	朝礼
10:00	作業
11:30	昼休憩
13:00	余暇活動
15:00	終礼
15:30	退所



# 障害者支援施設 自立生活訓練センター

目的: **社会復帰するため**に必要な適性機能を図る。

利用者: 主に身体障害・脳出血による高次脳機能障害の方が利用している**入所施設**。

活動内容: 麻痺の方は車いす等を使用した訓練、機能障害の方はグループに分かれて訓練を行っている。



引用元: [兵庫県社会福祉事業団 \(hwc.or.jp\)](http://hwc.or.jp)



# 主なサービス

- 自立訓練

- 機能訓練 → 主に身体機能障害の方が対象。最長で**1年半**。
- 生活訓練 → 主に高次脳機能障害の方が対象。最長で**2年**。

- 施設入所支援

- 短期入所

- 自動車の**運転適性評価**や**習熟訓練**



引用元：<http://news.mynavi.jp/news/2014/09/25/524/>  
<https://www.honda.co.jp/welfare/purpose/for-drive/one-hand.html>

# 支援内容

---

- プログラムの補助・見守り
- 入所利用者に対し、一部介助（排泄等）
- 入所対応・**専門職との連携**（セラピストや看護師、栄養士など）
- 個別支援計画**の作成

個々の利用者にあった支援



# 愛心園の利用者の一日の流れ

日課(午前)	日課(午後)
6:00 起床・更衣・歯磨き	13:30 日中活動
7:30 朝食	15:00 入浴
10:00 日中活動	17:00 夕食・ティータイム
11:30 昼食	20:00 就寝準備
休憩	22:00 消灯





# 愛心園の主な日中活動内容

活動	活動内容
ペットボトル分別作業	ラベルとペットボトルの蓋を外し、それぞれの籠に入れ、分別する。
シーダム作業	紙とプラスチックの部分を剥がし、それぞれの籠に入れ、分別する。
ラジオ体操	ラジオ体操の動画を観ながら、職員と一緒に体操をする。



# 援助関係の形成事例

---



# 援助関係の形成事例

## Aさん(男性)の特徴

- ・自閉症
- ・人やモノとの適切な距離感を理解することが難しく、近距離である。
- ・基本的に自信がない。
- ・楽しいことが好きで、多くの趣味がある。
- ・人と話すことがとても好きであり、積極的にコミュニケーションを取りたいという気持ち強い。

適切な距離感を伝えながらコミュニケーションを取る  
自信をつけることができるような声かけを行う

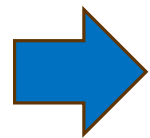


# 具体的な援助関係の形成方法



## 適切な距離感を保つ

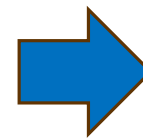
- ・人と話す前に必ず、距離の確認を行う。
- ・手を前に出しても人に当たらない位置で話すことを伝える。
- ・床に50cm程のひも、テープを貼る、テーブルを挟んで距離を取りながら会話をする。



人と話すことが好きだということを奪ってしまわないような支援をする

## 作業を通して自信をつける

- ・できているところはしっかりとほめる。
- ・声の大きさを大きくする。
- ・声のトーンを上げる。
- ・笑顔をつくり、表情を明るくする。



あいまいな変化は伝わりにくいため、オーバーリアクションをする



# 実際に行った結果



立ち止まって  
話すことができた

Aさんの口から、  
「できてた」という前向き  
な言葉が多くなった



# 支援計画作成のプロセス

---



# 利用者概要

Aさん

知的障害：60代女性一人暮らし

《 家庭生活 》

居宅介護（水曜日以外）：食生活の管理・服薬管理

相談支援事業所：金銭面

地域定着支援：夜間休日に困ったとき

《 日中 》

移動支援（週に2回） 生活介護 短期入所 通院介助



# アセスメント

---

- 初めての人や、苦手な場面では緊張と不安が強く、一人では対応が難しい
- 簡単な内容なら理解できるが詳しいところまでは分からないため他者の説明が必要
- 屋内での移動は手すりと杖を使って自分で移動できる
- 夜は隣人がうるさいためイヤホンをして寝ている。
- お金の使い方には支援が必要(毎月必要な金額を引き出すことで管理している)



〈 利用者の意向 〉

1人暮らしを続けたい

膝の負担を考え体重を減らしたい





# 生活課題

---

生活課題①: 体重増加により膝の痛みが増し  
歩くことが困難になる可能性がある

生活課題②: 生活に対する不安が強い

生活課題③: お金が足りずやりたいことができない



# プランニング

## 生活課題②: 生活に対する不安が強い

【 長期目標 】 安心して一人暮らしができる

【 短期目標 】 不安なことや悩んでいることを言葉にできる

### 《 支援内容 》

- ・昼食後職員と一緒に歩きながら日常会話を行い、  
気になることや、困っていることはないか聞く
- ・本人の負担にならないよう交換日記を実施し、  
今日あったことなどを絵や文字で書いてもらう



# モニタリング

---

本人の負担にならないよう交換日記を実施し、  
今日あったことなどを絵や文字で書いてもらう



その日に見ていたシッコウ！というドラマの  
女優さんを書いてきてくれた



# 学んだこと

---

- 個別支援計画を作成する際は本人がワクワクするような支援内容を考える
- 利用者さんのストレングスに目を向けること
- 計画が支援者の押し付けになっていないか常に確認することが大切



# 利用者概要

---

- Yさん(20代男性)
- 知的障害(療育手帳A)
- 知的障害にともなう自閉スペクトラム症
- 障害支援区分6
- 強いこだわり行動(記録ファイル→かご、雑誌→棚等元の位置に戻す)



# アセスメント(全体的な状況・利用者の意向)

---

## 全体的な状況

- 言語的な情報の理解が苦手。また自分の意志を伝えることが難しい。
- 普段の観察やご家族の話、ケース記録からアセスメントする。
- 午後のプログラム後や降所前の自由時間の過ごし方がわからず不安になりやすい。
- 記録ファイルがカゴから出ていたり、しまい方が汚いと気になりファイルに視線が集中している。
- こだわり行動が強く環境整備が必要。

## 利用者の意向

- 日々楽しく生活がしたい。(本人)
- 施設内で不安な状態やパニック状態にならないようにしたい。(本人)
- この施設を卒業しても落ち着いて生活できるようになりたい。(ご家族より)



# アセスメント(ニーズ・目標・支援の手順の設定)

---

## ニーズ

- 不安定な状態やこだわり行動が出ている時に落ち着けるようにする。  
→落ち着いている状態:不快時の行動が出ておらず静かな状態とする。

## 目標

- 長期目標:自分で落ち着くことができる。
- 短期目標:施設内に落ち着く場所(個室のスヌーズレンルーム)があると理解し、  
安定して入れるようにする。

## 支援の手順(プランニング)

- 不安定になりやすい状態(自由時間)にスヌーズレンルームに入って貰う。
- 個室に入って貰うことで、環境を整え一人でゆっくり過ごす時間を提供する。



# モニタリング・再アセスメント

---

## モニタリング

- 降所前にスヌーズレンルームに誘導し入って貰えたが1分程で出てしまった。
- 落ち着くには至らなかった。

## 再アセスメント

- 降所前は人の動きを観察しており、この観察している時間が好き。
- 自立課題を自由時間にすると落ち着いて課題に取り組んでいる。
- 家ではスーパーの広告を見ていると落ち着いている。(職員より)
- 支援の開始と終結の設定と自立課題・広告の準備の仕方等、支援計画書をだれが見ても同じ支援ができるよう構造化の必要性。(職員より)

⇒ 時間帯の変更、自立課題を導入に用いる、本人の好きなものを使う、計画の構造化





# プランニング

---

## 実施の手順と留意点

- 時間: 午後のプログラム終了後から利用者終礼まで
- ① スヌーズレンルームの空間を整える(エアコンの温度と窓の開閉は探る)(電気はつける)
- ② 自立課題とスーパーの広告を職員が持ち、声掛けと指差しで部屋へ誘導し一緒に入る。
- ③ 部屋に入ったら自立課題に取り組んでもらう。(自立課題中に扉を閉める)
- ④ 自立課題が終わったらスーパーの広告を見てもらう。(自立課題は部屋に置いたまま)
- ⑤ 広告を見て落ち着いている様子であれば職員は退出する。
- ⑥ 時々扉を開けて(5cm程度)様子を観察する。
- ⑦ 終結として鞆を見せて着替えの誘導と同時に退出の合図とする。



# モニタリング

---

- 自立課題を誘導として使い部屋の中に入ってもらい、集中して自立課題を行っていた。
- 自立課題終了後に広告を渡し見て落ち着いている様子であった。
- 一人で落ち着いている様子で退出を行った後も一人で落ち着いていた。
- 広告を見飽きたら、再び自立課題を自ら行っていた。
- 終結になるまで自分から出ることは一切なかった。
- 個室で環境が整備されこだわり行動がなかった。



# 支援計画を立てる上で学んだことや難しさ

---

## 学んだこと

- 自閉スペクトラム症の支援として構造化や見通しを立てることの必要性。
- 支援計画は誰が見ても同じ支援ができるようにより具体的に作成し一貫性を持たすこと。
- PDCAサイクルの繰り返しでより良い支援を目指していくこと。
- 支援計画を立てていくためには知識や経験から得られる引き出しの多さが大事になる。
- 支援において観察や気づきという部分が重要であり、日々アセスメントを行い小さな変化にも気づくことが大事。またリフレーミングを行い視点を変えて観察してみる。

## 難しさ

- 本人の毎日の観察から非言語コミュニケーションで意向やニーズを汲み取ること。
- できないことに視点が行きやすくなり、支援者が制限をかけてしまうこと。



# SW実習で学んだ支援の難しさについて

---

- できないことに視点が行きがちで、ストレングスに注目すること。
- 利用者本人のニーズに目を向けて、相手の立場に立って考えること。
- 日々様子の違う利用者に対する声かけを考え行うこと。
- 関わる方の多くが脳性まひで表情を見て感情を読み取ること。
- 多角的に支援すること
- 他者の生活の場に立って支援していくこと。
- 本人の言葉から出た意向が本当に思っていることなのか知っていくこと。



# SW実習を通して学んだことのまとめ

---

- 自己決定支援を大切にしていき、結論を急がせないこと、一方的な支援にならないこと。
- 障害特性を理解してかかわること。言葉だけに頼らない支援を行うこと。
- 視覚的な支援や静かな環境づくりを行っていくこと。
- 観察や気づきが大切、小さな変化にも気づいていくこと。
- 利用者をリフレーミングや俯瞰的に様子を見て、知っていくこと。
- 自分自身で体験して、やりがい責任感を感じて、相手の立場に立った支援をしていくこと。
- どのような人になってほしいか考えたうえで、支援内容を考えていくこと。
- チーム支援と連携を大切にし、小さなことにおいても共有していくこと。
- 本人の情報も大切であるが、本人の背景にある環境に目を向けていくこと。



---

ご視聴ありがとうございました。

